



負の流れは引きずらず 4得点の圧勝劇

駒澤大学4-0平成国際大学

駒大らしい形で追加点を決めた川岸 (撮影:佐藤 亮)

弾みをつける貴重な勝利

今大会をいい形で締めくくるためにも、勝利が求められた順位決定戦。この1週間で4試合目となる駒大は、前回の中大戦から大木以外のメンバーを全員変更。中でも驚きは川岸がFWで起用されたことだった。

試合序盤、その川岸を中心に攻め込む。5分、ロングボールに川岸が競り、こぼれたボールを板倉がシュートに持ち込むもこれはポストに嫌われる。さらに7分、平野のクロスからまたも板倉が合わせるがこれも入らず。

その後も次々と川岸にロングボールを送るが、キックの精度を欠きチャンスに至らない。しかし15分、ペナルティーエリア手前でボールを持った平野が左足でシュート。一瞬大きく外れたかと思われたが、ボールは急激にカーブしゴール左隅へ吸い込まれた。

ただ、「ハーフタイムに誰一人として戦っていないと言われた」と真野が語ったように前半は切り替えも遅く、相手の攻撃がアイデアに欠けたことにも助けられた。

後半に入ると相手もギアを上げてきたが、47分、真野がドリブル突破から左足を振り抜くと相手キーパーが弾いたボールはゴール

の中へ。これで平国大の出鼻をくじくと、続く62分には右サイド深い位置からの大木のクロスに川岸がスライディングで豪快に決める。この日初めて駒大らしさが出たゴールだった。締めくくりは71分。コーナーキックの流れから最後は中村が流し込み、勝負あり。4-0の圧勝劇となった。

後半はハーフタイムにはっぱをかけた事もあり、内容はよくなったが、これだけのメンバーであればもっと出来てもおかしくない。とはいえ、「真野も、奥田も使えるし、柳川も大木も良かった」(秋田監督)と何人かの選手が活躍を見せたことはこの試合最大の収穫と言える。また、直近の試合はもちろん、来週の東洋大との首位攻防戦を考えれば、中大戦で負けた流れを引きずらなかつたことは予想以上に大きいだろう。

次なる相手は前期リーグ最終節で対戦する青山学院大。専修大に勝利し、波に乗ってくる可能性は大いにある上にリーグ戦の前哨戦ともなる。しかし、駒大にとってそんな事は一切関係ない。どんな相手だろうと、いかなる試合だろうと、自分達のスタイルを貫いて勝利すのみである。

今日指せる最高の順位を得るためにも絶対条件だった勝利を手にした駒大。控えの選手たちから最高のバトンを受け、青山学院を倒しに挑む。(猪熊脩登)

6月9日 11:30 赤羽スポーツの森公園競技場

駒大 4 (1-0) 0 平国大 (3-0)

得点者 (アシスト)

[駒]15分平野
[駒]47分真野
[駒]62分川岸(大木)
[駒]71分中村(奥田)

KOMAZAWA	HEISEIKOKUSAI
GK◎積田景介(1)	GK◎荒川徹也(2)
DF◎大木 暁(4)	DF◎渡辺俊樹(4)
DF◎奥田 陸(2)	DF◎清水将実(1)
DF◎嶋谷昇大(1)	DF◎鎌田秀平(1)
DF◎柳川剛輝(1)	DF◎藤井琢也(4)
MF◎水野裕之(3)	(51分)◎石塚隼人(4)
MF◎中村 駿(1)	MF◎荻原健太(4)
(84分)◎豊田 豊(4)	MF◎本田圭佑(3)
MF◎平野篤志(1)	MF◎千葉真史(2)
(52分)◎溝口祐真(2)	MF◎結城光弘(4)
MF◎板倉直紀(2)	(58分)◎柏俣翔也(2)
MF◎真野直紀(4)	MF◎猪瀬拓也(1)
FW◎川岸祐輔(2)	(47分)増田聖樹(2)
(80分)◎奥村 情(2)	FW◎星子直哉(1)
S U B	S U B
GK◎野村正孝(3)	GK◎小池和樹(2)
DF◎三澤祥馬(4)	MF◎横瀬雄哉(1)
DF◎友廣壮希(3)	FW◎菊地夏輝(1)
FW◎菊池将太(1)	
MANAGER 秋田浩一	MANAGER 西川誠太

[シュート]12:1 [CK]2:8 [FK]7:5 [直接FK]10:21
[間接FK]4:3 [主審]渡辺紀承 [観衆]約141人

警告(C)/退場(S)

[平]26分藤井琢也(C)
[平]67分清水将実(C)
[平]85分渡辺俊樹(C)